

様式2

附属機関等の名称 会議概要

- 1 審議会名 第4回安曇野市地域包括ケア推進会議
- 2 日時 平成29年 9月25日(月) 午後1時30分から午後3時まで
- 3 会場 市役所本庁舎3階 全員協議会室
- 4 出席者 高橋千治委員、飯塚康博委員、横林和彦委員、中島美智子委員、山崎真弓委員、山田きく美委員、金井洋子委員、塩原秀治委員、松嶋隆徳委員、小松純子委員、山田高久委員、鳥羽昌弘委員、藤松寛子委員、伊東勉委員、宮澤健委員、屋鋪浩三委員、内山隆浩委員
(欠席委員：山本泰士委員、中山栄樹委員、重野義博委員、山下邦二委員、山田稔委員)
- 5 市側出席者 堀内保健医療部長、古畑介護保険課長、野本長寿社会課長、藤原課長補佐、西澤係長、奈良澤係長、岩原主査、中央地域包括支援センター：藤澤(宏)保健師、南部地域包括支援センター：山岸看護師、北部地域包括支援センター：土崎介護支援専門員
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 3人 記者 1人
- 8 会議概要作成年月日 平成29年9月25日

協議事項等

I 会議の概要

- 1 開会
- 2 委嘱書の交付
- 3 あいさつ(堀内部長)
あいさつ(高橋会長)
- 4 協議事項
 - (1) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて
 - (2) 認知症初期集中支援事業について
 - (3) 安曇野市地域支え合い推進フォーラムについて
 - (4) 前回のグループワークの結果について
- 5 その他
- 6 閉会(松嶋副会長)

II 審議概要

4 協議事項

- (1) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて(事務局より説明)
 - (2) 認知症初期集中支援事業について(事務局より説明)
- ※「認知症初期集中チーム検討委員会」の推進会議への設置について(案)

委員より意見・質疑

委員：3つの地域包括支援センターでやっているが、今後、高齢化が進み、高齢者が増えていくという状況で、各地域にまた4つ5つと増やす予定はあるか。

事務局：今後については第7期の計画の中で、検討していく内容ではあるが、現時点では現状の数でと考えている。

委員：地域ケア個別会議というのは、だいたいどのくらいの開催回数実績があるのか。

事務局：平成25年から開始して、平成28年度末までに30回開催している。今年度に入ってから開催しており、徐々に回数が増えている状況。

委員：インフォーマルな活動、特に認知症カフェ等に対して支援していくということで、非常に良いことだと思っている。この認知症カフェの使い方としては、介護者の方とその当事者と2人ペアで行かなくてはいけないのか。

事務局：そういった縛りはない。ご本人だけ、ご家族だけ、地域の方だけで参加していただける。参加を申し込まなければいけない、途中で退席してはいけないというような縛りがあるものではなく、自由に参加していただけるような運営になっている。ただし、介護相談に力を入れているカフェでは、わからない方が来て一からお話を聞くというのは大変だという

ことで、相談に力を入れているところでは申し込みの形をとっているところもある。

会 長：「認知症初期集中支援チーム検討委員会」の推進会議への設置については、承認ということでいいか。

(反対なし。承認。)

(3) 安曇野市地域支え合い推進フォーラムについて (事務局より説明)

委員より意見・質疑はとくになし

(4) 前回のグループワークの結果について (事務局より説明)

委員より意見・質疑

委 員：見守りをするということになっている見守り協定を結んでいるわけだが、ウォーキングしているのか、徘徊しているのかわからない、という人もたまにいるかもしれない。そういうところで、個人情報をごくまで開示するかということもあるとは思いますが、地域によっては発信機を付けることを考えているところがあるようだが、安曇野市としては考えはあるのか。

事務局：市では、購入の場合の補助、機器を探索するのにかかる費用の補助ということで制度は作ってあるが、なかなか利用が進んでいないというのが現状。現在、実績はない。

事務局：見守り協定に関しては、緩やかな形の中で無理のない範囲での見守りをお互いにしあいましょうという事業で進めているが、もう一つ、この人を見守りましょうという、やや積極的な見守りの事業も市でやっている。先ほどの説明では割愛をしたが説明をしたい。

事務局：認知症見守りネットワークというもので、こちらは、日頃散歩で歩いていってしまい、そのルートがだいたい決まっているけれども、帰ってこられなくなる心配がある。というようなご相談をケアマネジャーさんや包括の方へ寄せられることがある。そういう方のご家族に認知症見守りネットワークをご紹介している。具体的には、事前にご家族が同意される内容で顔写真、身体的特徴、身に着けているもの、認知症状の特徴等の基本情報をまとめたシートを、見守りしてもらいたいご近所、関係機関へ渡し、日頃の生活の中で見守りをしていただく。何か気が付いたことがあった場合は、ご家族、ケアマネジャーさん、包括の方へ電話をいただくというネットワークを行っている。

委 員：在宅生活を継続するための高齢者の生活環境の充実を図る事業ということで、足りないものを補っていきこうということだと思うが、足りないものを補うだけでなく、残っているものをさらに伸ばそうというような考えも必要かと思う。その辺も検討をお願いしたい。

委 員：直接関係があるかどうかかわからないが、推進フォーラムに関係するのか見守りに関係するのか、あるいは、こういう活動の前の段階の元気な状態のご老人が、活発に社会生活をする習慣を付けないといけないと思う。安曇野市というのは、この10万足らずの人口のところに、JRの駅がたくさんある。私は、高齢化率の一番高い明科に住んでいるが、JRというのは、地域に極力関係しないような形を取りたがる企業のように思う。篠ノ井線は無人化が進んでおり、明科駅も無人化になった。人がいないというわけではなく、JRの職員がいなくて、JRの出身者の団体に委託している。お年寄りが明科駅で切符を機械で買わなくてはいけないため、「切符買うのが嫌だ。」「使いづらい。」という声がある。なんとか市の方からJRかJRの委託団体をお願いをして、老人が利用したいときには、支え合いというか、わかりやすく手助けするようなシステムになっていますよというアピールをし、お年を召した方々に積極的にJRが使えるよう、便利な駅ですよというアピールをしていただきたい。なぜかという、とにかく駅まで行けば、あとは周遊バスも出ていて松本の病院も行けると言っても、嫌だ、難しいになってしまう。補助や助け合いの話がついてます、というアピールをすると、もっと駅に行ってもらえると思う。なんとかそういうことができないうか、支え合いの一環として取り上げていただきたい。

事務局：お元気な高齢者の方がたくさんいらして、その方たちが力を発揮していただけるということは本当にありがたいことだと思う。そのことが自身の生きがいにも繋がったり、それがまた支援を受ける側にとってもいいことであり、ご自身の介護予防に繋がるということで、とても大事なポイントと思う。具体的なJRのことについてはこの場でどういった方向でということとは言えないが、高齢者の社会参加ということで検討していきたい。

委 員：田舎ほどSuicaが使えるようにすれば非常にいいと思う。考えていただきたい。

5 その他

委員より意見・質疑はとくになし